

「参考資料」

1 三重県地震被害想定調査結果

南海トラフ地震については、以下の二つの地震を想定して調査を行った。

(ア) 過去最大クラスの南海トラフ地震

過去概ね100年から150年間隔でこの地域を襲い、揺れと津波により本県に甚大な被害をもたらしてきた、歴史的にこの地域で起こり得ることが実証されている南海トラフ地震です。

(イ) 理論上最大クラスの南海トラフ地震

あらゆる可能性を科学的見地から考慮し、発生する確率は極めて低いものの理論上は起こり得る最大クラスの南海トラフ地震です。

地震被害想定調査結果の概要

①各市町最大震度について

想定震源モデル（プレート境界型地震：2モデル、活断層を震源とする地震：3モデル）により、各市町において想定される最大震度は、以下のとおりです。

市町	最大震度					東海・東南海・南海地震（H17※）
	南海トラフ （過去最大）	南海トラフ （理論上最大）	養老—桑名— 四日市断層	布引山地東縁 断層帯（東部）	頓宮断層	
桑名市	6弱	7	7	6強	5強	6弱
いなべ市	6弱	6強	7	6弱	6強	6弱
木曽岬町	6弱	7	7	7	5強	6弱
東員町	6弱	6強	7	6弱	5強	6弱
四日市市	6強	7	7	6強	6弱	6弱
菰野町	6弱	6強	6強	6弱	5強	6弱
朝日町	6弱	6強	7	6強	5強	6弱
川越町	6弱	7	7	6強	6弱	6弱
鈴鹿市	6強	7	7	7	5強	6強
亀山市	6弱	6強	6強	6強	6弱	6強
津市	6強	7	6強	7	6弱	6強
松阪市	6強	7	6弱	7	5強	6強
多気町	6強	7	5強	6強	5強	6強
明和町	6強	7	6弱	6強	5強	6強
大台町	6強	7	5強	6強	5弱	6強
伊賀市	6弱	6強	6弱	6弱	6強	6弱
名張市	6弱	6強	5強	6弱	6弱	5強
伊勢市	6強	7	6弱	6弱	5強	6強

鳥羽市	6強	7	6弱	6弱	5強	7
志摩市	7	7	5強	6弱	5弱	7
玉城町	6強	7	5強	6弱	5強	6強
南伊勢町	7	7	5強	6弱	5弱	7
大紀町	6強	7	5強	6強	5弱	6強
度会町	6強	7	5強	6強	5強	6強
尾鷲市	6強	7	4	5弱	4	6強
紀北町	6強	7	5弱	6弱	5弱	6強
熊野市	7	7	4	5弱	4	6強
御浜町	7	7	4	5弱	4	6強
紀宝町	6強	7	4	4	4	6強

※前回調査（平成17年度）で行った東海・東南海・南海地震が同時発生した場合を掲載しています。

②南海トラフ地震の被害想定調査結果について

南海トラフ地震発生を想定した場合の被害想定についてはその概要については、以下のとおりです。

【南海トラフ地震による被害想定結果】

項目	南海トラフ (過去最大)	南海トラフ (理論上最大)	※東海・東南海・ 南海 (H17. 3)
最大震度	7	7	7
死者（揺れ）	約 1,400	約 9,700	約 1,300
死者（津波）	約 32,000	約 42,000	約 1,000～3,100
死者（火災）	—	約 900	約 40
死者（急傾斜等）	約 60	約 100	約 340
死者（合計）	約 34,000	約 53,000	約 2,700～4,800
負傷者	約 17,800	約 62,000	約 11,700
全壊建物（揺れ）	約 23,000	約 170,000	約 39,000
全壊建物（津波）	約 38,000	約 37,000	約 10,000
全壊建物（火災）	約 2,100	約 34,000	約 2,900
全壊建物（液状化）	約 5,900	約 6,200	約 10,800
全壊建物（急傾斜等）	約 700	約 1,100	約 3,400
全壊建物（合計）	約 70,000	約 248,000	約 66,100

※ 単位は、人的被害は「人」、建物被害は「棟」、「—」はわずか。

※ 火災による全壊（焼失）棟数は、冬の夕方に発生した場合を想定。

※詳細は、下記をご覧ください。

○地震被害想定結果の概要

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/02/ci500003606.htm>

2 エピソード等

① 東日本大震災（2011年3月11日 午後2時46分）

○釜石の出来事

「生かされた防災教育の取り組み」釜石東中学校校長 平野 憲前校長

地震発生と同時に停電となり校内放送は使えなかった。3階にいる生徒は非常階段を使って校庭へ出た。その場の自主的な判断により校舎外に全員避難することができた。

「点呼はとらなくてよい。とにかくございしょの里（第1次避難場所）に避難しなさい」。副校長の指示で、校庭に整列しようとしていた生徒たちは、それぞれに学校から700m離れた「ございしょの里」を目指した。職員室にいた一番若い先生には、「率先避難者になって走り出して」と頼んだ。

隣にある鶉住居小学校では、津波の到達が早いかもしれないと判断し、児童を校舎3階に避難させていた。中学生が「津波だ」「逃げろ」と叫びながら走るのを見て、校舎を出て、同じように「ございしょの里」を目指して避難を始めた。

「ございしょの里」には、避難した時のための「学級札」を置いていた。小中合同避難訓練の時のように、先に着いた生徒や教員が学級札をかざし、ばらばらに避難してきた児童生徒たちは素早く整列し、点呼をとった。全員の無事を確認することができた。安心したのも束の間、教員の一人が、近所のお年寄りから、建物脇の崖が崩れているのを知らされた。「生まれてから、ここの山が崩れることなど見たこともない。これからとんでもないことが起こる。」副校長の判断で、さらに高台にある介護福祉施設へ避難が可能かどうか、教員を確認に走らせた。高台から両手で輪を作った「OK」のサインが見え、避難を開始した。「助けられる人から助ける人へ」。これまでの避難訓練どおり、中学生は小学生、保育園児の手を引き、声をかけて励ましながら避難した。また、小中学生約600人が一斉に避難するのを見た近隣の人たちもつられるよう避難を始めた。全員2次避難場所の介護福祉施設に到着した。列の後ろに並んだ生徒が駐車場から振り返ると津波が鶉住居地区の町を飲み込んでいく様子が見えた。全員でさらに高台を目指した。学校から避難した生徒全員の無事を確認した。

「岩手県教育委員会東日本大震災津波記録誌（一部抜粋）」

○南三陸町防災庁舎の悲劇

高さ15.5メートルの大津波が押し寄せ、高さ12メートルの防災対策庁舎は鉄骨の骨組だけが残し、隣接していた行政第一庁舎、第二庁舎は流出した。地震観測後、町災害対策本部が設置され、職員が情報収集等に当たっていたが、大津波襲来により庁舎の屋上に避難した。屋上の床上3.5メートルに達する大津波に襲われ、町長ら11名は生還したが、職員や住民43名が犠牲になった。防災無線で町民に最後まで避難を呼びかけ犠牲となった女性職員については、全国的に大きく報道され、埼玉県内の公立学校の道徳の教材になった。庁舎前には献花台が設置されており、多くの人が手を合わせる場となっている。

「宮城県震災遺構有識者会議報告書」より抜粋

○大川小学校の悲劇

平成23年（2011年）3月11日（金）14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生した。石巻市立大川小学校では、地震当時在校していた児童・教職員が校庭への二次避難を行ったが、その後、保護者等への引渡しにより下校した児童27名を除く児童76名、教職員11名が津波に遭遇し、うち5名（児童4名、教職員1名）を除く多くの児童・教職員が被災した。

当学校は、これまでに津波が到達した記録がなく、住民は大川小学校がいざという時の避難所と認識していたこと、しかも、山と堤防に遮られていて津波の動向が把握できない環境だったこと等が避難を遅らせた要因として挙げられた。

「大川小学校事故検証委員会より（抜粋要約）」

② 阪神淡路大震災（1995年1月17日 午前5時46分）

タイトル：譲り合い、助け合い・・・他人が身内のように感じられました。

倒壊を免れた近所の方の家で休ませていただいた後、近くの小学校の体育館で避難所生活をはじめました。外に出て最初の驚きは、見慣れた街並みが一変していたこと。近所の古い木造住宅は全滅、塀は道路に崩れ落ちてはるか向こうまで街が見渡せ、被害のひどさを物語っていました。

避難所での生活は辛いこともたくさんありましたが、それ以上に感動させられることもたくさんありました。狭いスペースの中で見知らぬ者同士が場所を譲り合っていたこと、自分の家が潰れてしまって大変だというのに炊き出しに参加する人がいたこと、次にトイレを使う人のためにバケツリレーで水を運ぶという思いやり溢れる行動…どれも印象的でした。そして電気が復旧してTVがついた時、ほんの少し日常が戻った気がして何とも言えない安心感を覚えたことを思い出します。

淡路島の旧北淡町は、兵庫県南部地震の震源地に近く、多くの建物が全半壊となる被害を受けました。しかし、この町では、地域の人が近所の家情報をもちより、がれきの下で消えそうになった命を次々に助け出しました。そして、地震発生から約11時間後、自衛隊が到着するまでに、生存していた人、亡くなった人、すべての救出を終えていたそうです。

地震の直後、このような助け合いは各地で行われました。阪神・淡路大震災で破壊された家屋から救出された3万5千人のうち、2万7千人は近所の住民に救出されたといわれています。災害時の救命救助はスピードが大切です。最初の72時間（3日間）がかぎといわれています。しかし、大地震の時は、各地で同時に生き埋めになったり出火したりするので、被災地の消防や警察だけでは救命救助の人数が足りません。全国の消防や警察の応援の到着は早くても2日目、3日目となります。このような状況で、多くの命を救うのは住民の助け合いです。消防や警察が十分につかんでいない家族の状況も、近所の住民なら知っていることもあります。日頃から地域の人と繋がりをもっていれば、一層の防災・減災につながるでしょう。

兵庫県防災教育副読本「明日に生きる」より

③ 昭和東南海地震（1944年12月8日 午後1時36分）

体験手記（南伊勢町 萩原 敏男 当時 19歳）：

私は第二次世界大戦による招集を受けており、入隊を数日後にひかえて、父とみかん山で大石など重い物の片付けをしていた。突然足下をすくわれる様なはげしい揺れにおそわれ立っていられず、思わずその場に手と膝をついた。津波のことが頭に浮かび、余震の中家に帰り、おびえる牛を引いて高台の家へ避難した。河口からは、はまぼうの林を飲み込むような高さで赤濁りの水が壁のようになって押し寄せてきた。

「みえ防災減災アーカイブより」

※その他のエピソードや手記等を調べる場合は、下記サイトを閲覧ください。

○東日本大震災からの復興（文科省）

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/monbu.htm

- ・ 文部科学白書において、被災地復興における小・中・高の活動事例をまとめています。

○心の復興記録集～東日本大震災を乗り越えて～（平成28年3月発行）（宮城県）

<http://www.pref.miyagi.jp/site/gikyou-kkr/recoveryalbum.html>

- ・ 宮城県内の小・中・高校生が、東日本大震災からの5年間を振り返り、経験から学んだことや実践してきたこと、現在の心境や今後の生き方等について綴った作文106点を取りまとめたものです。

○人と防災未来センター「震災を語る」

http://www.dri.ne.jp/material/material_stories

- ・ 「人と防災未来センター」（神戸市中央区）にて自らの体験を生で語る語り部さんのインタビューを掲載しています。

○みえ防災減災アーカイブ

<http://midori.midimic.jp/>

- ・ 三重県で起こった災害の体験談・証言などをまとめたものです。

3 防災関連ホームページ

① 日本大震災記録

<p>NHK東日本大震災アーカイブス https://www2.nhk.or.jp/archives/shinsai/</p> <ul style="list-style-type: none">・ NHKがまとめた東日本大震災の被災者の証言や災害映像等を掲載しています。
<p>ひなぎく（NDL東日本大震災アーカイブ） http://kn.ndl.go.jp/</p> <ul style="list-style-type: none">・ 国立国会図書館が作成した東日本大震災の災害映像記録等を掲載しています。
<p>東日本大震災アーカイブ宮城 https://kioku.library.pref.miyagi.jp/</p> <ul style="list-style-type: none">・ 宮城県がまとめた東日本大震災の県内市町の災害写真等を掲載しています。
<p>河北新報 震災アーカイブ http://kahoku-archive.shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/kahokuweb/?1</p> <ul style="list-style-type: none">・ 東北の地方有力紙である河北新報が東日本大震災の取材で得られた貴重な災害写真等を収録しています。
<p>消防防災博物館 東日本大震災 https://www.bousaihaku.com/contribution/2711/</p> <ul style="list-style-type: none">・ 消防庁作成のインターネット博物館では、東日本大震災のさまざまな写真映像を集約しています。
<p>ICT地域の絆保存プロジェクト（宮城県東松島市） http://www.lib-city-hm.jp/lib/2012ICT/shinsai2012.html</p> <ul style="list-style-type: none">・ 東松島市では、市内地域別の市民から得られた災害写真等を掲載しています。
<p>たがじょう見聞憶（宮城県多賀城市） http://tagajo.irides.tohoku.ac.jp/index</p> <ul style="list-style-type: none">・ 宮城県多賀城市では、市内地域別の市民から得られた災害写真等を掲載しています。

② ハザードマップ

震度予測分布図

<http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/84541007863.htm>

- ・平成25年度三重県地震被害想定調査において、過去最大・理論上最大クラスの南海トラフ地震等を対象として作成した、地域別の震度予測分布図です。

津波浸水予測図

<http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/84188007991.htm>

- ・三重県が想定した浸水予測図です。

液状化危険度予測分布図

<http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/84543007860.htm>

- ・平成25年度三重県地震被害想定調査において、過去最大・理論上最大クラスの南海トラフ地震等の想定地震を対象として作成した、地域別の液状化危険度予測図です。

河川の浸水想定区域図

http://www.pref.mie.lg.jp/KASEN/HP/84459046892_00002.htm

- ・河川整備の目標とする降雨により、堤防が決壊した場合のシミュレーションを行い、浸水が想定される区域と深さを求め、それを図化したものが浸水想定区域図です。

土砂災害想定区域図

http://www.pref.mie.lg.jp/HOZEN/HP/06770006284_00003.htm

- ・土砂災害が想定される土地を土砂災害警戒区域、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ住民に著しい危害が生ずるおそれのある土地を土砂災害特別警戒区域として指定します。

土砂災害危険箇所図

http://www1.sabo.pref.mie.jp/mie_gis/start.php

- ・土砂災害危険箇所は、過去の土砂災害の実績等から調査方法を定め、土砂災害の発生及び被害の危険性がある場所として設定したもので、土石流危険渓流、地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所があります。

県内市町の避難所情報、防災マップ

http://www.bosaimie.jp/resource/1495426761000/X_MIE_ne000

- ・三重県及び県内市町のホームページで、避難所情報、防災マップ等を掲載しています。

ハザードマップポータルサイト（国土交通省）

<http://disaportal.gsi.go.jp/>

- ・全国の市町が作成している、さまざまなハザードマップを一元的に閲覧・検索することができます。

③ 防災学習サイト

津波防災啓発ビデオ（気象庁）

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/eq/index.html>

- ・ 津波防災啓発ビデオ「津波に備える」「津波から逃げる」等を収録しており、東日本大震災も踏まえ、津波から命を守るために、備えておきたい津波の知識や避難のポイントを実際の映像やCG、インタビュー等を使って解説したビデオです。

防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」（気象庁）

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/cb_saigai_dvd/

- ・ 発達した積乱雲が引き起こす「急な大雨」「雷」「竜巻」等の激しい現象に対して、自分の置かれた状況を的確に判断し率先して自他の身の安全を図っていただくことを目的に制作しています。

リーフレット・パンフレット・ポスター（気象庁）

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html#c>

- ・ 気象庁が作成した地震津波や台風等の風水害のリーフレット等が入手できます。

防災危機管理 e-カレッジ

<https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/>

- ・ 総務省消防庁が作成した防災教材で入門コース、一般コース、専門コースと分かれています。

まもるいのち ひろめるぼうさい（日本赤十字社）

<https://www.jrc.or.jp/volunteer-and-youth/youth/document/>

- ・ 東日本大震災を教訓として、日本赤十字社が制作しています。

NPO土砂災害防止広報センター

<http://www.sabopc.or.jp/>

- ・ 土砂災害防止に関する知識の普及や意識の醸成に一層努めていくため、「防災学習お役立ちページ」を開設しています。